

発足からの歩み


49年前に産声を上げた神奈川大和阿波おどり。当時のポスターとともに歴史を振り返ります。



昭和52年
第1回大和阿波おどりを開催
7月3日に新橋通り商店街の中元売り出しとして実施したのが始まり。



昭和59年
第8回大会
新橋通り中心から現在の範囲まで拡大



平成9年
第21回大会
神奈川大和阿波おどりに改名。「ぞめぎ大和」を初めて開催する。



令和8年
第50回
50回大会記念誌
まだまだ50回。「見る阿波おどり」「演じる阿波おどり」「支える阿波おどり」を次の世代へつないでいきます。



平成23年
第35回大会
東日本大震災による計画停電で大会時間を短縮。阿波おどりをPRする「大和なでこ」4人を選出。友好都市の韓国光明市の農楽祭へ参加する。



平成12年
第24回
駅前東側プロムナードに800席の棧敷席。県下最大級の阿波おどりに。

面白さ
やっぱり阿波おどりは踊らにゃ損。踊っている人自身が一番楽しんでるんじゃないかなと思います。普段は難しい顔をした人が踊り始めた途端、別人になったようにここにこし始めるのを見るのは面白いんです。現在、地元連は16連ですが、今後は20連、30連と増えていって、神奈川大和阿波おどりが大きくなってほしいと思います。

阿波おどりの思い出
50年前、26歳のときに、第1回大会に新橋連の踊り手として参加しました。当時は手作り感満載のお祭りで、看板を手作りしたり夜中までちようちんを付けて回ったりしました。
昭和58年にはたごさく連を立ち上げました。みのを身に着け米俵を担ぐなど農民の格好をして踊っていましたね。
その後、殿様の格好をした踊りも加わって、ユニークな連になりました。皆でハワイに遠征して、ワイキキのメインストリートで踊りを披露したこともありまして。現地のかたにかぶりものをせがまれたのはいい思い出です。



相談役 岸幸博さん 76歳
振興協会会長、実行委員長などを経て、今も裏方で支え続ける岸さん。第1回大会から現在までを知るレジェンドから見た阿波おどりは。



50th Anniversary
神奈川大和
阿波おどり
やっぱり踊りはやめられなから

昭和52年に始まった大和の夏の風物詩「神奈川大和阿波おどり」は、今年で50回目を迎えます。今や高円寺、南越谷と並び「関東三大阿波踊り」と称されるまでになりました。本特集では、阿波おどりに情熱を注ぐ3名へのインタビューを通して、その歴史と今を伝えます。50年の歴史が紡いできた熱気を感じに、会場に足を運んでみませんか。

7月25日(土)・26日(日)
いずれも午後4時30分～8時20分
※交通規制：午後4時～8時30分
大和駅周辺商店街

☎ 神奈川大和阿波おどり振興協会事務局(大和商工会議所内) ☎050(7303)4837 FAX(263)1705
※市の所管はにぎわいイベント課。



にわか連に参加しよう!
～踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々～
にわか連は阿波おどり当日に結成される連で、誰でも参加できます。踊りができなくても大丈夫。見ているだけじゃ物足りない。そんな気持ちになったら、ぜひ踊ってみませんか。
とき▶7月25日(土)・26日(日)いずれも午後4時～
ところ▶大和駅北口改札側マクドナルド付近集合。

